

## 学習指導案の形式（例） 高等学校

◇学習指導案には、定まった形式や基準はない。生徒の実態や指導内容、指導者の構想や意図により、様々に創意工夫していくことが求められている。「高等学校学習指導要領解説（平成30年7月 文部科学省）」、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（令和3年8月 国立教育政策研究所）」等を参考に作成する。

### 保健体育科（科目名）学習指導案

〇〇高等学校 〇〇科 〇年〇組  
令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時 〇〇教室 指導者 〇〇 〇〇

#### 1 単元名

◇学習指導要領に示されている「第2 各学年の目標及び内容 2 内容」の項目を「内容のまとめ」という。この「内容のまとめ」を踏まえて、単元や題材を設定する。内容のまとめと、単元や題材との関係は、教科や領域によって異なる。

#### 2 単元の目標

◇学習指導要領の「内容のまとめ」の記載事項等を踏まえて設定する。

- 例（1）「知識及び技能」に関する目標（例：～理解する。～身に付ける。等）  
（2）「思考力、判断力、表現力等」に関する目標（例：～表現する。等）  
（3）「学びに向かう力、人間性等」に関する目標（例：～態度を養う。等）

#### 3 単元の評価規準

- ◇評価規準の設定に当たっては、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」や、「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価」等を参考に適切に設定する（参考資料の巻末に「内容のまとめごとの評価規準（例）」や、「単元ごとの評価規準（例）」が記載されている教科もあります）。
- ◇「知識・技能」は「内容のまとめごとの評価規準（例）」を基に、該当の単元名や題材名を記載し、評価の観点の趣旨を踏まえて、評価規準を作成する。
- ◇「思考・判断・表現」は「内容のまとめごとの評価規準（例）」を基に、評価の観点の趣旨を踏まえて、評価規準を作成する。
- ◇「主体的に学習に取り組む態度」は「内容のまとめごとの評価規準（例）」を基に作成する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
（単元の目標に対して） ～身に付けている。 ～理解している。 等	（単元の目標に対して） ～表現している。 等	（単元の目標に対して） ～しようとしている。 等

4 指導上の立場

- 単元観
- 生徒観
- 指導観

◇指導者の立場で書く。

- ◇単元観…学習指導要領の記述から「単元を通して身に付けたい力」について整理すると共に、「単元の系統性」（何を学んできたのか、今後どんな学びにつながるのか）も併せて整理する。その際、教科書教材や資料集等の分析を行い、その単元の難しさを把握し、生徒の学習課題を把握して書く。
- ◇生徒観…単元や本時に関する「既習事項の定着状況」と「学習に対する学級の課題」を生徒の実態として記述し、整理する。
- ◇指導観…単元観と生徒観で記述した「学習上の課題」を克服するための指導者の意図や思いを「学習指導のためのアプローチ」として具体的な指導・支援の手立てを書く。これが研究授業の「研究仮説」や「提案性」につながる。

5 指導と評価の計画（全○時間）（○・・・「記録に残す評価」）

次	時	ねらい・学習活動	知	思	態	評価規準及び評価方法
一	1	◇生徒の立場で書く。		○		○○に着目して、問題を見いだして課題を設定している。【記述分析】
	2		○			○○について理解している。【記述分析】
二		◇「知」は「知識・技能」、 「思」は「思考・判断・表現」、 「態」は「主体的に学習に取り組む態度」を示している。			○	○○の特徴を見いだして表現している。【記述分析、行動観察】
三						

◇記録に残す評価の設定は、単元に応じて適切に設定する。定期考査等の活用も考えられる

◇「○」印は、評価規準に照らして、生徒全員の学習状況を記録に残す場面として示している。空欄は評価を行わないことではなく、形成的な評価に重点を置いて、生徒の活動を見取り、次の指導に生かしたり、生徒一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況などについて積極的に個人内評価を行ったりする。

6 本時案（第○次 第○時）

(1) 本時の目標

- ◇「2 単元の目標」「5 指導と評価の計画」との整合を図る。
- ◇本時の評価規準との整合を図る。
- ◇生徒の立場で書く。

(2) 展 開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
<p>1</p> <p>◇生徒の立場で書く。</p>	<p>◇指導者の立場で書く。</p>	<p>◇生徒の立場で書く。</p>
<p>目標</p> <p>◇単元における本時の位置づけを踏まえて、何をどのように学ぶのかを明確にし、生徒の立場で本時の目標（又はめあて・課題等）を書く。</p>		
<p>2</p> <p>◇活動に順序がある場合は、(1)(2)で書く。</p> <p>◇導入・展開・終末の学習過程に沿って、生徒の学習活動を具体的に書く。</p> <p>◇授業展開については、「岡山型学習指導のスタンダード（授業5）」を参考にする。</p>	<p>◇学習活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体的に学習を進めるための手立て</li> <li>・生徒が対話的に学習を進めるための手立て</li> <li>・生徒が学習を深めるための手立て</li> <li>・生徒一人ひとりの学習状況に応じた手立て</li> <li>・予想される生徒の反応</li> <li>・資料提示のタイミングや方法</li> <li>・効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物 等</li> </ul> <p>◇学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。</p> <p>◇「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立ての例を示す。</p>	<p>◇単元を通して資質・能力を育成する観点から、本時の評価規準を踏まえて、本時的に評価する場面に絞って、評価規準に照らして、評価方法を具体的に書く。</p> <p>◇評価方法を具体的に書く。</p>
<p>4</p> <p>まとめ</p>	<p>◇本時に何を学んだのかが分かるように整理し、本時の目標と対応したまとめを書く。</p>	<p>◇評価方法の例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発言の内容</li> <li>・行動の観察</li> <li>・ノート、ワークシートの記述 等</li> </ul>
<p>5</p>	<p>◇学習の成果が自覚できる振り返りの視点を明確にして書く。振り返りの視点は、『岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善「一歩先へ！」』を参考にする。</p>	

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿の例

- ◇本時の評価規準に照らして、本時でねらう生徒の姿について、想定される生徒の発言や記述例等を取り入れながら具体的に書く。なお、ここに挙げる具体的な生徒の姿が、どのような指導によって表れるのか等、指導と評価のつながりを意識して書く。

(3) 準備物

- ◇ワークシート、プリント、その他必要な準備物を書く。